

ちからたろう
力太郎

(日本の昔話)

昔、ある村に、まずしいおじいさんとおばあさんがいました。二人はおふろにも入れず、体はあかだらけでした。

ある日、二人が体からこすり落としたあかで、小さな人形を作ってみました。すると、その人形が、元気な男の子になったのです。二人は、その子を力太郎と名づけました。

力太郎は、ごはんをもりもり食べて、あつという間に大きな力持ちになりました。やがて、力太郎は、百貫目もある鉄のぼうを作ってもらい、旅に出ました。

とちゅうで、大きな石を軽々と動かす石こ太郎と、大きなお堂をかついで歩くお堂こ太郎に出会いました。三人は力くらべをしました。力太郎がかったので、二人は家来になりました。

三人は、村をあらしていた化け物をたいじし、村の人々に、たいそう感謝されたということです。力太郎たちは、その後も、こまっている人を助けて旅をつづけました。

1

おじいさんとおばあさんは、何で人形を作りましたか。

体の



2

力太郎は、何でできたぼうを作ってもらいましたか。



のぼう

3

石こ太郎とお堂こ太郎が家来になったのは、どうしてですか。



4

三人は、さいごに何をしましたか。

ア 力くらべをした。

イ 化け物をたいじした。

ウ 旅をやめた。